

辺野古埋立土砂搬出反対!首都圏グループについて

これまで話し合われている内容は、ほぼ次のとおりです。

◆ 主な活動

1. 辺野古新基地建設とそれに関連する全ての施策・行為に反対する。特に本州・西日本各地からの埋立土砂の搬出に反対する。同じ趣旨で行動する団体、特に「埋めるな連」「国会包囲突」「辺野古突」と共に首都圏の運動に参画し、積極的に行動する。
2. 「辺野古土砂全協」の東京での行動、特に防衛省・環境省への申し入れや、国会請願行動、集会、イベントなどを中心的に担う。
3. 同じ趣旨の市民と国会議員の共同行動を強化するため、また運動情報の共有のため、国会ロビー活動を精力的に行なう。

◆ 組織体制、組織の性格

わが「首都圏グループ」は、市民の緩やかな「運動体」で、組織としての拘束は行なわない。当面は会員制・会費制は取らない。

運営は、活動を中心になって担うリーダーの「委員」（当面は10名前後）と、委員から選出された「世話人」（当面は3名）が中心的に行なう。委員会はイベントの後など、年5回は開催し、その連絡はイベント案内時に予告する。委員からのみ、会費として年間2000円を徴収する。その他の必要経費は、カンパで賄う。

奄美大島と徳之島の辺野古埋立て土砂の採掘の実態

土砂採掘は至る所で、進む自然破壊、戦争の脅威（上）

報告 辺野古土砂搬出反対/首都圏グループ 若槻武行 山崎眞純
取材協力：奄美ブロック護憲平和フォーラム事務局長 城村典文さん

I. 奄美大島

奄美大島と徳之島の地層の大部分は古生層の花崗岩が含まれ、沖永良部島・与論島・喜界島のような珊瑚礁の島とは違い、石材の産地だ。島の国道58号線などの幹線道路を

走るとき、山肌をちょっと注意して見ると、至る所に採石場があり、石材を採った残りの砂利と土の「岩ずり」が仮置き場で野積み（放置）されている。岩ずりの山は一年もすると草木が生えて判り難くなってしまふ。

島の海沿いの集落には「全て」と言っているほど船溜まりが作られ、護岸堤も伸びている。奄美群島が 1953 年の日本復帰後、集落前の砂浜には波返し型の護岸堤が設置されたが、浜砂が波にさらわれ浜全体が細くなり、挙句の果ては離岸堤までが設置されている。河川や道路工事の赤土流出で美しい珊瑚礁のリーフが姿を消した所もあった。

最近、山の頂に自衛隊の基地や施設の新・増設で、貴重な動植物の棲息する森が伐採され、道路は長いトンネルができ道幅が広がるなど、自然への負荷が高まっている。

奄美大島は土砂崩れも多いようだ。インターネットで検索するとたくさん出てくる。手つかずの崖が大雨などの自然災害で崩れたものもあるが、土砂の採掘現場のものも少なくない。今、奄美群島全体が「世界自然遺産」と「国立公園」で観光客を呼ぼうと賑わっているが、そんなことなどお構いなしに、採掘現場周辺ではけたたましい騒音が響き、粉塵が舞っていた。現場近くは「天然記念物のアマミノクロウサギの生息地」の筈だが、その範囲は急速に狭まっている。

沖縄防衛局の辺野古新基地建設・埋立て用土砂搬入計画の変更では、奄美大島では 530 万 m³ から 1190 万 m³ に拡大。各業者は競争して、埋立必要量をはるかに超える量を含から準備しているようだ。（沖縄県は不承認）

◆奄美市住用町・市集落 ①

集落に向かう市道の脇には大量の岩ずりが積まれていた。道路の採石現場は作業休止だが、奥の川上の方で新たに採掘を始めている。集落民の反対をよそに、県も採石許可を与えた。法律を無視した工法で、いつ崩落事故が起こるか不安を抱えている。

廃土は道路の両側に数百メートルにわたって仮置きされていて、一目では分からないほど草や木が生えていた。①A 外来種のセイタカアワダチソウ、オオキンケイギク、アメリカハナグルマなども生え、有毒昆虫のセアカゴケグモも見つかっている。

2015 年、雨が降って積上げた土砂が流れ、道路を遮断。県道が通れなくなった。赤泥水は住用湾に流れ出て、透明度が高く美しい珊瑚礁の海を汚し、採石場直下の珊瑚は死滅状態に。湾内の海岸からトビラ島の周辺の珊瑚の一部は死滅。当時の海の視界 1m、ヘドロの厚さはひどい所で 20~30 cm。今の濁りは若干少なくなってきたが、珊瑚の復活は不明だ。①B



違法な採掘現場が遠望できる ① A



市湾とトビラ島。手前は土が流失した痕跡 ① B

土砂流出は小中学校からも見えた。大雨で積上げた土砂の崩壊。子供は海水浴ができない。湾ではかつて魚が全く取れなかった。住民団体は地元自治体や県に抗議を行った。採取地は、アマミノクロウサギの生息地だったが、激減。ソテツの森も破壊している。

◆住用町 戸玉集落 ②

中部砕石（奄美市住用町山間）の扱いは、2 か所の専用棧橋から搬出する計画。戸玉集落では石材搬出用棧橋が造られていた。土砂はその棧橋から奄美大島内の積み出し港にいったん集めるかどうかは不明。辺野古新基地の埋立て用となることは十分あり得る。

昼夜騒音を伴う仕分けや船への運搬作業が続く。集落民が作業の騒音に苦情を上げたら、業者は粗末な仮設の防音壁を造った。②B



業者専用の土砂搬出港②A 右奥がブロックを積んだ防音壁②B 石材・岩ずりを仕分けた戸玉の採石場②C

◆住用町 住用川の河口付近 ③

マングローブ林が広がる観光スポット。中～下流ではカヌーが楽しめる。河口では砕石を運び出す港の工事で、川砂の流入を防ぐ導流堤を造ったため、下流域に土砂が溜まり川底が浅くなった。2019年の奄美豪雨の災害に影響を与えたようだ。③ 行政当局は浚渫を検討しているが、国立公園特別保護区にあり、未だ実現できていない。



導流堤により河口に溜まり続ける土砂 ③

◆瀬戸内町 嘉徳集落海岸 ④

嘉徳砂丘は日本に3か所残る手つかずの砂丘の一つ(他に鳥取砂丘、西表砂丘)。2014年の台風で砂丘に浜崖でき、鹿児島県は保全地区に指定し、当初は波返し型の護岸堤530mの建設を予定したが、環境団体の要請で環境配慮型180mを2019年までに完成させると変更。その後、ウミガメの上陸等の配慮から本体工事は中断し、今に至っている。

④A,B

21年7月、嘉徳川流域全体が世界自然遺産・緩衝地に編入されたのを契機に、環境団体から護岸堤工事の見直しを求める声が上がっている。

しかし県は、集落民の生命と財産を守ることが優先との立場で、建設予定地の砂浜に木の杭を打ち込み、砂丘の森を壊して工事用の道路づくりに着手。住民の命と自然保護、どちらも大事で、話し合いの場が必要になっている。

なお、小中学校のこの集落の旧嘉徳分校の廃校舎が美術館に改装、秀作が展示され、住民や観光客に安らぎの場を与えている。



沖合で10年間も海砂採取した嘉徳砂丘 ④A

世界遺産緩衝地区での護岸堤建設予定砂丘 ④B

嘉徳集落の隣、節子集落の山の上の陸上自衛隊・瀬戸内分屯地(地図*2)に地対艦ミサイル部隊が配備され、大型弾薬貯蔵庫トンネル式5本(1本1000㎡)が建設中。現場に至る構内道路は幅が広く頑丈そうだ。また、これまで何度か、工事現場のプラントから嘉徳川へ白濁水が放出されているようで、住民の抗議に環境省はモニタリングを始めている。

奄美群島では陸上自衛隊駐屯地の開設後、自衛隊の訓練などが住民生活に影響を与えている。沖縄・普天間基地から飛び立った米軍機・オスプレーの低空飛行訓練も、奄美自衛隊基地周辺を標的にして頻繁に行っている。

◆瀬戸内町 阿木名集落 ⑤

瀬戸内町の市街地古仁屋地区に隣接。国道のすぐ脇に緑原採石の大きな採石場の山⑤Aがあった。同社は近くの伊須湾の南側の道路沿いの膨大な土砂も仮置き場⑤B,Cにし、新計画では古仁屋港から搬出するとしている。湾内に会社独自の仮棧橋を設け、ベルトコンベアーで運び出すことが予想される。

周辺の山は「イジュの木」やイタジイが茂る貴重な原始林で、アマミノクロウサギなど貴重な生物の宝庫。さらに、大雨時には廃土から赤土が海に流れ出す恐れも気になる。



国道脇の石材置き場 ⑤A



海岸沿い仮置き場と立入禁止看板 ⑤B



仮置き場は山海両側に⑤C

土砂置き場の対岸には、自衛隊瀬戸内分屯地の隊員用の立派な5階建て宿舎が2棟ある。エレベーターは運動のため付いてないとか？ 空き地には子どもの遊具を揃えた公園もあったが、撮影は禁止。

◆瀬戸内町・加計呂麻島 ⑥

大島海峡を隔てた加計呂麻島は奄美大島南部の瀬戸内町の行政区で、その加計呂麻島の瀬相港からの搬出が、防衛省の計画変更で新規に上がった。同島は大戦の戦跡も多く、海上自衛隊の分遣隊の基地(地図*4)がある。しかし、海も山も実に美しい島だ。沖縄県「不承認」の計画では、業者名は加計呂麻砕石と指定されている。島内を隈なく回ったが、砕石現場はなかった。業者による住民への説明会らしきものはあったが、「住民の理解が得られず、まだ動いていない」とのこと。土砂採取の候補地になりそうな所は、春には「ブロッコリーの森」になるイタジイが茂る急峻な山で、崖崩れと自然破壊が心配される。⑥

港と道路が整備されていて、一たび採掘が始まると土砂の搬出は容易に進むだろう。



春には特に見事なブロッコリーの森に ⑥

◆東シナ海側の大和村でも ⑦⑧

湯湾岳山頂から北、南の宇陰村と北隣の大和村の両村の境界付近、国道から少し入った所に、かなり大規模な採掘の現場があった。⑦



本土資本の業者による碎石場 ⑦



広大な岩ずり置き場 ⑧

採掘現場から少し離れ、やはり国道から入ってすぐの高台に、これまた広大な土砂・岩ずりの仮置き場⑧があった。

途中まで続いていた緑豊かな国立公園、世界遺産の森とは全く違う別世界が、突如として現れた感じだ。山の起伏はない。この土地は昔、山だったのではないかと想像できるほど不自然な地形だ。草や木に覆われている所も岩ずりのようだ。あまりにも広大で土砂の量は推定できない。

◆奄美市名瀬の北東・龍郷町 ⑨ ⑩ ⑪

変更計画では龍郷町からは 530 万 m³の土砂を、名瀬港に専用栈橋を設置して搬出するという。丸大産業(龍郷町中勝)が元受けて、奄美碎石、丸井碎石、奄美産業開発が採掘に参加することになっている。

国道 58 号線沿いに丸大産業の現場⑨があった。写真の看板下は系列が別の産廃業者。岩ずりは産廃と同じなのだ。また、海岸近くには沖縄の業者が買い取った岩ずりが放置されていた。



国道脇の丸大産業の碎石現場 ⑨



採掘現場は住宅のすぐ裏 ⑩



沖縄の業者が買取った土砂 ⑪

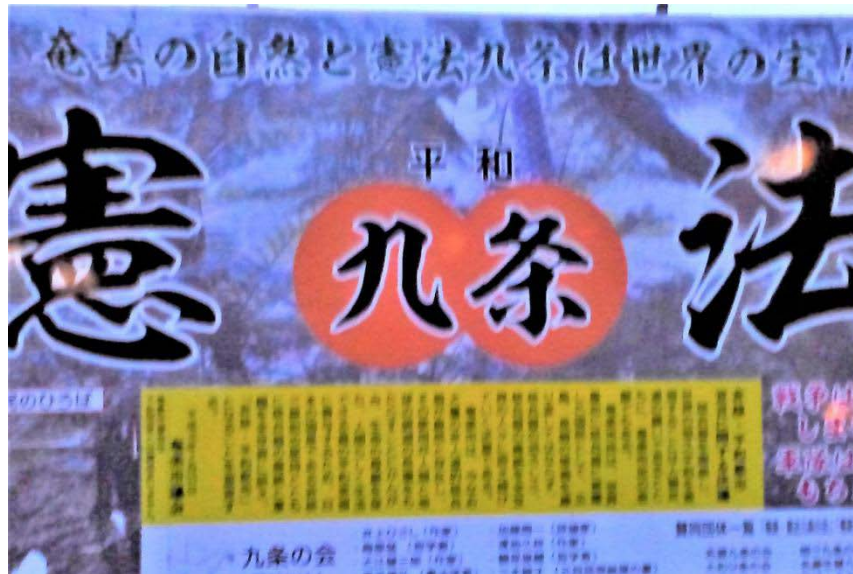
同町には、すぐ近くにも 2 か所の岩ずり仮置き場がある。住宅や墓場に近く、土砂崩れでもあったら被害が出そうな所⑩だ。台風や大雨の多い奄美大島では、そんな事例も幾つかあるということだ。そこから太平洋岸の方へ行くと、沖縄の業者がすでに買い取った岩ずりが放置されていた。⑪

奄美大島は海が透明で、山の植生も豊かで、自然が文句なしに、兎に角美しい。国立公園、世界自然遺産に指定も領ける。しかし、よく見ると傷だらけの島だ。自然破壊が進んでいるだけでなく、それが自衛隊の基地・施設、さらに戦争に結びついている。

奄美大島では特に安倍政権時代の 2019 年から、この島々に最新型のミサイルを配備した自衛隊基地建設が本格的に進んでいる。地図*1,*2,*3,*4 は自衛隊の施設・基地であり、喜界島や沖永良部島等にも高性能レーダーが配備された通信所がある。

この自衛隊配備と辺野古新基地建設と島内の土砂採掘・搬出が密接に関係している点も着目しなければならない。

大津さんを偲んで



奄美市の中心・名瀬の郊外、東シナ海に面した海岸道路沿いに、辺野古土砂・全協の元・共同代表の故・大津さんのお宅がありました。国道に面し、憲法9条の大看板が……。さすが！、大津さん！。奄美大島の土砂問題の視察で、名瀬に帰り着く少し前で少々疲れていましたが、この看板を見て元気が蘇ってきた気がしました。

ドキュメンタリー映画『発酵する民』

鎌倉の「脱原発」がテーマ 2/5 より公開

日時：2月5日(土)より厚木で2週間。その後、全国各地で公開決定。

会場：厚木の映画館「kiki」 <https://atsuginoeigakan-kiki.com/>

(厚木市中町2丁目 12-15 アミューあつぎ 9F)

問い合わせ； 公式サイト <https://fermentfilm.com/> よりメールで。

映画/予告編 <https://www.youtube.com/watch?v=1W4vK1SsWUE>

大切にしている「ことば」

沖縄大学地域研究所特別研究員 毛利 孝雄 (当首都圏グループ世話人)

沖縄に心を寄せる多くの人が、この日を待ち続けていたことだろう。11月25日玉城デニー知事の記者会見は「不承認」理由を簡潔・明快に述べている。それから8日目となる12月3日には、首相官邸前で沖縄現地と同時行動となる集会が取り組まれ、500人が声を上げた(写真)。いずれもYouTubeにアップされているので、ぜひ視聴してほしい。



これから書きつけるのは、12/3集会のなかで印象深かった立憲民主党・山岸一生議員(今次総選挙で初当選)による連帯発言のことだ。

「2013年、朝日新聞の記者として沖縄に赴任、「オール沖縄」の生まれる瞬間を見てきた。新しい政治への希望を確信した。それが政治をめざした私の原点。東京に帰るとき「戻ったら基地のことは忘れるんじゃないの」と言われた。問われているのは沖縄ではない。本土の私たち一人ひとりだ。」

私は、2011年から2013年にかけて沖縄大学に留学していたので、同時代の沖縄をともに体験していたことになる。「戻ったら基地のことは忘れるんじゃないの」と問われた話を聞きながら、私が沖縄を離れる際、本土から沖縄に移住したばかりの友人からかけられたことばが、鮮やかによみがえった。

「自分の人生のために沖縄を利用した、という気持ちがありませんか」

沖縄を離れて8年を経たいまも、大切にしている言葉だ。そして、答えは見つからない。考え続けること、悩み続けること、「沖縄を考える」とは、そういうことかもしれない。あらためて、山岸議員の言葉を、友人の言葉をかみしめる。

※「基地のない平和な沖縄をめざす会」の会報(2021.12.7)に書いたものです。

米軍の「無人機」(MQ9)を配備！……

当グループの結団の当初からのメンバーETさんのフェイスブックから

2月1日の東京新聞「こちら特報部」を読みビックリ！ 鹿児島島の海上自衛隊の基地に米軍の「無人機」(MQ9)を配備すること。アフガンなどで「テロとの戦い」に使われ、「死に神」と呼ばれている兵器。自衛隊基地に米無人機を置くのは初めて。

地元の鹿島市役所では、先月の25日に地元紙「南日本新聞」でMQ9配備を始めて知ったという。「幹部も全然知らされておらず、非常に驚いています」とのコメント。専門家は「このままでは全国の自衛隊基地が、米軍の基地状態になる」と警鐘を鳴らしている！

「ユニバーサルスタジオ北京」の違和感 沖縄・奄美が戦争の最前線になる可能性

今村 良一（当会委員）

昨年（2021）9月20日、ユニバーサル・スタジオ・北京がオープンした。大阪にもあるがディズニーランドと並び称される代表的なアメリカ版のリゾート施設だ。ホテルや商業施設などを併設し、パークの規模は日本の2倍、リゾート総面積は日本の10倍という大規模なものだ。当初は韓国でユニバーサル・スタジオ・ 코리아を計画していたが、それが北京に変わったのだそうだ。

このニュース、国内ではあまり大きな話題にはならなかったが、違和感をもったのは私だけだろうか？

ちょっと考えてみてほしい。今、台湾をめぐる米中戦争がとりざたされ、マスコミも危機を煽っているが、もし開戦前夜であるならば、このような施設の建設はありえないはずだ。

そういえば同じ時期、米軍トップのミリー統合参謀本部議長は米中戦争突入を懸念し、中国軍の高官に「アメリカが中国を攻撃することはない」と断言していた。アメリカの指導者たちもバカではない。米中戦争したらどうなるか、痛いほどわかっているのだろう。だから直接の米中戦争は考えにくい。そこで、ユニバーサル・スタジオ・北京のオープンなのだろう。

しかし、アメリカはこう考えるかもしれない。「日本が我々の代わりに戦ってくれれば…」そのせいか、アメリカは日本にファイブアイズの同盟国になるよう求めている。

ファイブアイズとは英国、米国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドの5カ国の同盟で、通信傍受網で得た情報を分析・共有している。いずれの国もアングロサクソンだ。それが2020年、中国に対抗するため、日本に機密情報の共有拡大を働きかける動きが生まれ、これに対して当時の河野太郎防衛相も意欲を示し、日本もファイブアイズに加盟すべきと報道された。これでやっとアメリカの真のお友達になれると歓迎する日本人もいる。本当におめでたいお話だ。

そして日本では沖縄の離島などを中心に戦争前夜のような気配が漂う。安倍とかいう人は、「台湾有事は日本の有事」と張り切っている。沖縄の島々はまるで不沈空母のようなミサイル列島に変わろうとしている。昨年、アメリカの大手資本が北京に進出した事などどこ吹く風だ…。

米中対立というが、米中は今でも貿易面では依存しすぎているようだ。中国の船は津軽海峡を通過して米本土に物資をせっせと運んでいる（下図左）。津軽海峡の中央部分は公海区域となっており外国船が通過できる。中国・ロシアの艦隊も通過しているので昨年話題になった。

米大統領選挙の応援フラッグは民主党も共和党もほとんどが中国で作られていた。大統領選のゆくえを占う義烏（ぎう）指数などという言葉すらあるくらいだ。

いざというとき、アメリカが日本を守ることは考えにくい。北海道に米軍の基地はない。台湾にもない。中国やロシアとの戦争に巻き込まれたくないからだそうだ。日本の電力会社はすべて原発を有するが沖縄電力だけには原発をもたせていない。アメリカはきちんとリス

クを見極めて対処している。

中国の最近の姿勢にはきわめて不快感があるが、それを米英が言えた立場か？とも思われる。そしてなによりも中国から見れば、いわゆる「琉球弧」が中国に覆いかぶさっている。多分、日本は目の上のコブではないだろうか。右の地図をみてどう思われるか。

もし、有事となればミサイル基地がある島々は、真っ先に中国からやられる可能性があるだろう。2022年は明けたが、くれぐれも日本が戦争に巻き込まれないことを願っている。今年の参議院選はその意味でもきわめて重要だと思う。



「琉球弧」の南から与那国島、石垣島、宮古島、沖縄本島、沖永良部島、徳之島、奄美大島、喜界島、馬毛島などには自衛隊の高性能ミサイル・レイダー・通信・空港・港湾等を完備した基地・駐屯地・分屯地などの部隊を配備している。

奄美群島の土砂・ミサイル基地と選挙について

山咲 真人 (当会世話人)

辺野古新基地埋立土砂の搬出予定地とされている奄美群島の島々を奄美ブロック護憲平和フォーラムの城村さん、牧さん、喜山さん、西さんたちの案内で視察してきました。特に奄美大島では採掘、砕石、野積、堆積で山、海の自然破壊が進み、特に護岸堤建設は海砂を奪い、海岸の地形を変え、動植物などの生態系にも重大な危機を及ぼしています。

辺野古新基地の埋立用の土砂は沖縄本島で調達すると防衛省は述べていましたが、最近では鹿児島県からも搬出を計画しています。これに対し、奄美大島、徳之島では世界自然遺産に登録され、観光事業や徳之島漁協などの関係住民は「郷土の自然、海は壊してはならない。一粒の砂も辺野古に持ち出さない」と反対しています。それは心強く感じますが、奄美大島の漁民はすでに漁業権を放棄しています。ただ、奄美市住用、戸玉集落などで土砂砕石事業、土砂搬出港建設、騒音苦痛などで反対運動があっても、運動は脆弱で、砕石、土砂の無法な砕石事業が続けられています。

行政は住民の苦情を避けると称し、搬出港を山の裏側に山の上半分をスッポリと削り取るなど、呆れるほど無暴な建設を計画し、海、山、川など自然環境の破壊を加速させています。

奄美大島で土砂採取・集積の環境被害と共に目についたのは、自衛隊基地建設による自然喪失、環境被害です。港湾建設、基地周辺の道路整備と港までの道路整備、拡張工事の増大、全ては軍事優先という感じです。

この自衛隊のミサイルやレーダー通信などの施設がここ数年で新設・増設され、環境被害が出ています。奄美で唯一、人工物のない嘉徳川では、自衛隊瀬戸内分屯地から出た高濃度白濁液が混入し、琉球列島固有亜種で絶滅危惧種「琉球鮎」の生息条件の5mg/lの40倍の濃度で被害が出ています。また、この影響で奄美固有種で絶滅危惧種であるアマミノクロウサギ、リュウキュウイノシシなどの減少が加速されるのではないかと心配です。

世界自然遺産登録で、白濁化の原因調査や希少動植物の捕獲、採取、持出規制や保護などは、確に行なっているようですが、自衛隊基地建設が最優先され、身内による身内の調査で被害を隠蔽しようとしています。このまま生物多様性を破壊していけば、気候変動とともに人類は破滅の道を進むことになり、第三者による調査が求められるところです。

ここ数年、特に2019年頃から、対中国封じの第一列島線の軍事基地要塞化が進んでいます。辺野古新軍事基地を建設する沖縄本島、その南の宮古島、石垣島、与那国島、北は沖永良部島や奄美大島、喜界島、馬毛島などではすでに建設され、それ以外の島々でも軍事優先の政策が進みそうです。それにより生物多様性豊かな自然環境・生態系が急ピッチ破壊されようとしています。

もともと政府は自然環境など無視し、国家防衛のための軍事基地要塞を次々と建設しています。有事になれば当然、住民の被害が想定されるのに、避難経路すら全く計画されていないことも暴露されています。軍隊は住民を守らないのは、今も昔も同じようです。「国と郷土の防衛」を声高に叫びながら、自然破壊と軍事的危機を広げておいて、政府は何を守ろうとしているのか明らかにすべきです。

衆議院議員や名護市長選挙では、辺野古新軍事基地の「正当性」を全面に訴えることなく、日米地位協定の改定さえ選挙の争点に掲げていません。それどころか、自然環境破壊、気候変動、ジェンダー問題さえも、左派的すぎると批判する風潮を批判もしません。それにより、辺野古新基地、西南諸島ミサイル基地に反対運動、環境派には厳しい結果となりました。

右へ右へと草木も靡くから右にスタンスを置くのではなく、最低条件として、戦争に反対の立場を明確にし、日米地位協定の改定・廃棄、辺野古新軍事基地建設と西南諸島ミサイル自衛隊基地建設反対運動の一体化を確認すべきだと思います。野党系の辺野古基地は理解できるが、安保・自衛隊は容認なので西南諸島自衛隊基地には触れない、というのは運動の連動・拡大を阻害しています。生物多様性を守る、気候変動対策などの未来のビジョンを明確に提示することが求められています。

付 記

◆ 中国や北朝鮮問題について、大手マスメディアの論調

日本を取り巻く環境の厳しさを考えれば、日米安保の重要性はこれからも変わるまい。日米安保条約を「安定と価値を礎とした安定した国際秩序」を築くため、日本は主体的な外交を行うべき。—— 朝日。

日本が再び戦火を被ることがなかったのは平和主義の理念だけでなく、世界最強国との同盟が結果的に抑止力によって保たれてきたと断言できる。—— 毎日

世界の警察官であることに消極的な内向き志向の合衆国との同盟関係を安定的機能させるためにも、自衛隊の役割を広げるなどして抑止力を高めるべき。—— 読売

日本の平和は憲法9条でなく外交努力、自衛隊、駐留米軍の抑止力によって保たれてきたと断言し、日本の役割を増やすべき。—— 産経

辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会 第9回定期総会in鹿児島

《許さない!南西諸島の軍事要塞化と辺野古への土砂搬出》

南西諸島防衛強化反対



馬毛島(南日本新聞より)

防衛省は南西諸島防衛強化と称して、沖縄の与那国島・宮古島・沖縄島・奄美大島に監視隊の配備と、地対艦・地対空ミサイルを配備する基地建設を強行しました。石垣島にも配備する計画です。特に、空白地帯として種子島の「馬毛島」に、米軍のFCLP訓練に加え、陸海空自衛隊の総合訓練ができる軍事基地の建設を、西之表市長や市民の反対を押し切って強行しようとしています。その鹿児島で、2022年度の総会を開催します。総会後は、薩摩半島の碎石場と「馬毛島」の視察を実施します。みなさん是非、ご参加ください。

■1日目…2022年5月28日(土)

会場:マリンパレスかごしま(鹿児島市与次郎 2-8-8 ☎099-253-8822)

《一部・鹿児島記念集会》13:30~15:50

①記念講演

テーマ…「軍事要塞化が進む琉球弧・馬毛島の現状と課題」

講師…磨島昭広さん(鹿児島県護憲平和フォーラム・事務局長)

②基調報告

テーマ「辺野古への土砂搬出・鹿児島の課題と希望」

報告…末田一秀さん(辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会・顧問)

③故郷の土砂を辺野古に使わせない…各地からたたかいの報告

奄美大島・徳之島・沖縄島南部

《二部・第9回定期総会》16:20~18:00

《三部・懇親会》18:30~20:30

鹿児島「おごじょ太鼓(予定)」

■2日目…5月29日(日) 8:00~16:00

薩摩半島碎石場視察

■3日目(オプション)…5月30日(月)

鹿児島から種子島に移動

■4日目(オプション)…5月31日(火)

馬毛島上陸(約30分)・鹿児島本港南埠頭で解散

総会 プログラム

最大約4,400万㎡の土砂が
鹿児島から沖縄に



辺野古の工事現場(琉球新報より)

裏面の用紙で、申し込みをお願いします。締め切りは2月28日(月)です。

*申し込みのキャンセルは5月10日(火)までに。それ以降は、キャンセル料が発生する場合があります。また、天候によっては、馬毛島に上陸できない可能性がありますので、予めご了承ください。



【お問い合わせは総会事務局】

kanpanerura888k@gmail.com(八記久美子)

090-3783-8332(阿部悦子)

※ 参加を希望される首都圏の方、首都圏グループ関係者の方は、1 ページ右上・メルマガ発行者まで、ご連絡ください。予算は、7万円+2日分食事代+鹿児島までの往復交通費です。

ミサイル基地建設と石垣島の自然保護

石垣島 アンパルの自然を守る会 事務局長 山崎雅毅

1. 自然保護団体が「ミサイル基地」に反対する理由！

いうまでもなく戦争こそ最大の自然破壊です。だから石垣島が戦場になることに絶対反対です。沖縄防衛局、石垣市のこれまでの行為の数々は、ミサイル基地建設に関する「住民に丁寧に説明する」（沖縄防衛局）、「市民に情報を速やかに開示する」（石垣市長）という言葉が、まったくのまやかしかありませんでした。

アンパルの自然はアンパルだけで守れない。したがってこれまで島中の自然保護に関する活動と連携しています。島全体の自然保護ができなければアンパルの自然を守ることが不可能です。当然、ミサイル基地建設によって失われる希少で貴重な自然が壊されることにも反対です。これは結成当初からの当会の基本姿勢です。

2. 3万本樹木伐採問題の不思議,異様さ！

於茂登岳(おもとだけ)の山麓に建設が強行されている陸自ミサイル基地で、石垣市が貸与または売却した土地で3万本以上の樹木が伐採されます。しかし、その詳細は伏せられたままでした。石垣市景観形成審議会で行われた沖縄防衛局の報告には、同局が実施した「事前調査＝現況報告（H30）」にもない樹種もあり、謎だらけのデータをもとに「審議」されました。この件について当会役員のコメントです。

【沖縄防衛局の発言で大問題なのは、平得大俣でサキシマスオウノキやアマミアラカシを大量に伐採するというものです。陸域山間部のサキシマスオウノキがそんなにあつたら天然記念物ものです。要するに樹種がめちゃくちゃです。沖縄防衛局が平成31年に報告した「現況報告（H30）」に両種は出現していません。しかもだれも（景観審議会委員）指摘していない。こんなアホな伐採計画がありますか？】



左：沖縄防衛局が於茂登岳の麓で建設を強行している陸自ミサイル基地＝21.8.4現在

右：奥の建設中の陸自ミサイル基地と手前の開南集落（[JAWAN通信 No.136](#) 転載）

3. 環境アセスから逃げた沖縄防衛局

沖縄県は「環境アセスメント」の対象開発面積を50haから20haに変更しました。ミサイル基地は2019年4月以降、環境アセスメントの対象になります。そこで沖縄防衛局は同年3月に着工という姑息なアセス逃れをしました。その後、徹底的に住民を無視する態度をとり現在に至っています。

当該地の近くに特別天然記念物に指定の「サキシマスオウノキ群落」（約150本）があり、巨大なサキシマスオウノキは、西表島の観光名所の一つになっています。船で浦

内川を上り、潮間帯で見られるのですが、それが通常の生育場所です。ところが、海拔70メートル近くの森の中に生育している事例は少ないため石垣島の「サキシマスオウノキ群落」は特別天然記念物なのです。結論から言うととんでもないでたらめ情報です。

アマミアラカシ 8846 本についても同じです。今回伐採予定地は石垣市が沖縄防衛局に売り渡したまたは貸与した地域です。30年前までパイナップル畑でした。30年たって密林になったのですが、地元の人にはサキシマスオウノキやアマミシラカシが存在しないことを知っています。コンサル業者のでたらめ調査を、沖縄防衛局も石垣市も、何の疑問も持たなかったのです。景観形成審議会には、環境省の職員もいたのですが一言も発言していません。

当時、石垣市が全国一の新型コロナ患者発生率という状況でした。集まって議論もできず、メールで意見を交換し、見解をまとめ新聞投稿をしました。記者会見、石垣市への要請に参加し、会の見解を「石垣島に軍事基地をつくらせない市民連絡会」とともに表明しています。

4. 特別天然記念物カンムリワシの保護

近接する森に棲むカンムリワシは絶滅危惧種で特別天然記念物です。ミサイル基地建設予定地のすべての巨大な花崗岩（家一軒分ほどの大きなものもある）をすべて削岩、砕石化しなければ基地建設ができない場所です。基地周辺で2年に渡り80デシベルを超える大騒音を響かせ花崗岩削岩、破碎作業が続いています。カンムリワシのみならず周辺に住む人々をも苦しめています。周辺住民の多くは沖縄本島で米軍基地建設により土地を奪われ石垣島に移住し、ジャングルを開拓してきた農家のみなさんです。

沖縄防衛局は「氏名不詳のカンムリワシの専門家」のアドバイスを受け、カンムリワシに対する保護対策を実施していると強弁しています。その「カンムリワシの専門家」のことは、石垣島と西表島のカンムリワシの観察者の誰も知りません。実在するのかわかっても不明です。研究者であるならカンムリワシに関する「論文」があるはずですが、それも明らかにされません。住民を納得させる一切の説明を拒否して、住民を馬鹿にした態度を平然と続けています。

これも「環境アセスメント」を逃れたことによって「可能」になったことです。「環境アセスメント」が実施されていれば「住民説明」が義務付けられ、簡単に住民を騙すことはできませんでした。

カンムリワシ保護のために最低限必要なことは、雌のテリトリー500m以内を60デシベル以下（削岩作業をしていない＝基地建設前の音量）にすることです。特別天然記念物であり石垣市の鳥であるカンムリワシを保護する条例が存在しないというのもおかしい話です。カンムリワシ保護条例制定に向けた活動も加速させなければなりません。

5. 中山市政が生んだ、目を覆うばかりの幹部職員の劣化

石垣市は6月の議会答弁で「現況報告書（H30）」を持っていないので、一覧表にサキシマスオウノキ、アマミアラカシがないということを確認できないなどと、白々しい言い訳をしています。もしそれが事実とすれば、石垣市が売却、貸与した地域の自然環境について自ら調査もしていないし、防衛局の調査結果すら見ていないと公言しているのです。

石垣市の議会答弁を聞いていると全く市民の側を向くことができない幹部職員の劣化する姿が歴然としてきました。これも中山市長の在任11年余の間に、市職員を付度（自発的隷属）しかできない姿にしてしまったのです。こんな市長は一日も早く退場してもらわなければなりません。

6. 米・中の軍事覇権の渦中の琉球列島

ではこのようなやりたい放題の公共事業が日本本土で果たして可能でしょうか。秋田県、山口県で計画されていたイージスアショア配備計画が、住民、首長の反対で撤回されました。ブースターという燃焼装置が住民の住む地域に落下することが大きな理由でした。石垣島をはじめ琉球列島に配備されるミサイルも同じくブースターを装置しています。しかもミサイル搭載車輛は自走式ですから島のどこからでも発射できるので、島中を戦場にします。どこが違うのでしょうか。まさに沖縄差別です。

「市長のミサイル基地建設容認」の口実が「尖閣問題を抱えている地方自治体」であるということです。琉球列島全体に配備の準備をしているミサイルは、中国の台湾軍事侵攻を「想定」したアメリカの軍事戦略であって「尖閣有事」を想定していません。アメリカは尖閣諸島の領有権についてさえ旗色を明らかにしていません。中国軍を太平洋に進出させない、米中の軍事覇権をめぐる争いであって、その最前線に琉球列島が置かれているのです。

7. 世界史上初のミサイル戦争の戦場に

琉球列島はかつての沖縄戦の惨状を超える悲惨な状況になるでしょう。中東で、アメリカをはじめ有志国家連合軍がイラクに大量のミサイルを撃ち込み、米軍等がイラクに地上軍を送り込んだことは記憶に新しいこと。結局、口実であった大量破壊兵器はどこにも存在していません。フセイン政権打倒のために実行された戦争でした。

しかし、双方がミサイル戦闘能力を持つ国が、ミサイルを撃ち合うという戦争は、歴史上ありません。琉球列島で想定されている戦争は中国軍と自衛隊がミサイルを撃ち合う、世界で最初の戦争です。

自衛隊は殲滅され、そのあとから米軍が加わり、離島奪還の軍事行動を開始するというシナリオです。住民の命はまったく保証されていません。オフショア作戦という地域限定戦争を想定していますが、それは日米政府が勝手に想定しているだけです。おまけに、石垣市は自治体に義務付けられている「国民保護計画」を非公表にしたのです。開いた口が塞がらない市民無視の政治姿勢です。

8. 住民投票権を奪う自治基本条例の改悪

基地建設地の元所有者は友寄永三市会議員です。防衛局はいくらで売却したのか情報を隠していますが、よほど高額で買ってもらったのでしょうか。「有権者の4分の1以上の署名を集めた場合、石垣市に住民投票の義務があることを定めた自治基本条例」がありました。その当該条項を削除する議員提案をしたのです。6月本会議最終日に、ほとんど議論もなく与党多数の賛成で可決してしまいました。昨年、1万4000筆を超える署名を集めて住民投票が実施できる条件をクリアしていたのですが、市長は義務を果たさず、これを議会にかけ否決させてしまいました。

辺野古住民投票の結果を見ている市長、与党議員は、投票が実施されれば大変なことになると恐れていたのです。現在裁判に持ち込まれ最高裁に上告していますが、地裁も高裁も住民投票の権利を否定する判決を出しています。裁判に何の期待もしていませんから、結局は市長を変えるしか方法がないということです。来年2月の市長選挙に向けて市民の手で市長候補と政策を作る準備を進めています。新型コロナは住民運動を停滞させています。これに負けない住民運動を作らなければならないという困難がありますが、「野党議員に任せておけない」という市民の気持ちが形成されつつあります。

※ 次号予告 同じ石垣島の山崎雅毅氏の《石垣島名蔵アンパル源流域のリゾート計画に画期的な「知事意見」》を掲載します。

辺野古 だけではなく、
沖縄に新基地を造らせない
 and 離島の島々に



※ 上の図は少し前の物? よくできていて説得力がありますが、喜界島や沖永良部島の高性能なレーダー、通信基地、また奄美大島の地対艦ミサイル基地など、重要な事柄が入っていません。ほんの少しの間に……、政府・防衛省の軍備拡張の速さ、無法ぶりは許しがたいものが大あります。

~~~~~

**編集後記** ◆奄美群島での辺野古埋立て土砂の採掘の実態及び自衛隊ミサイル基地建設による自然環境破壊の取材で、城村さんをはじめとした奄美ブロック護憲平和フォーラムの方々の多大な協力に、感謝しています。(Y) ◆辺野古土砂・首都圏グループのメルマガ創刊準備版です。コロナ禍でこそ出来る活動として試作してみました。皆さんの投稿を歓迎します。内容は直接・間接に辺野古新基地に反対している内容なら、自由。既発表もOKです。詩、短歌、俳句、写真や絵も歓迎です。1ページ右上に記したアドレスへEメールをお願いします。(いま) ◆組織の性格から、多種多様な方々が投稿されると嬉しいのですが、多すぎた場合、他の原稿のテーマのバランスで判断することとなり、掲載できないとか、延びことも。また、内容が運動の趣旨と合わない場合は、掲載を見合わせることもあります。(M) ◆同居の家族に介護関係者が居て人混みへの外出が制限され、コロナ禍でもできる活動でメルマガを思いついた次第。皆さんの積極参加を！原稿はメールでお願いします。(W) \*投稿・連絡先: [mochan-123daaa@tbz.t-com.ne.jp](mailto:mochan-123daaa@tbz.t-com.ne.jp), [take.wakatsuki@gmail.com](mailto:take.wakatsuki@gmail.com),